

(3) 特 設 展 示

① 本のおしゃれ

期 間 平成26年7月19日(土)～8月24日(日)

趣 旨 本の中身を引き立たせ、ある時は内容以上に強烈な印象を与える表紙やさし絵。館蔵資料の中から、明治から昭和にかけて刊行された小説集・歌集・詩集、さらに文学雑誌を取り上げ、その装幀やさし絵の魅力を紹介します。

*同時開催として、特別コーナー「村岡花子と柳原白蓮」を開催した。

展 示 資 料 一 覧

- 泉鏡花／著 鱈崎英朋／口絵『続風流線』1912(明治45)年5月3版(1905年8月初版)春陽堂
泉鏡花／著 鏑木清方／口絵『三枚続』1902(明治35)年1月 春陽堂
泉鏡花／著 鏑木清方／口絵 橋口五葉／扉『恋女房』1913(大正2)年12月 鳳鳴社
泉鏡花／著 池田輝方・池田蕉園合作／口絵『相合傘』1914(大正3)年7月 鳳鳴社
泉鏡花／著 鏑木清方／口絵『薄紅梅』1939(昭和14)年10月 春陽堂
泉鏡花／著 小村雪岱／装幀『愛艸集』1918(大正7)年7月 春陽堂
泉鏡花／著 小村雪岱／装幀『鴛鴦帳』1918(大正7)年6月 止善堂
泉鏡花／著 小村雪岱／装幀『鏡花選集』1915(大正4)年6月 春陽堂
泉鏡花／著 小村雪岱／装幀『遊里集』1918(大正7)年12月8版(1915年10月初版)春陽堂
泉鏡花／著 小村雪岱／装幀『芍薬の歌』1919(大正8)年9月3版(1918年3月初版)春陽堂
夏目漱石／著 橋口五葉／装幀『吾輩ハ猫デアル』上・中・下1905(明治38)年10月～1907年5月 大倉書店・服部書店
夏目漱石／著 「吾輩は猫である」第9章原稿〈複製〉
夏目漱石／著 橋口五葉／装幀『漾虚集』1906(明治39)年5月 大倉書店・服部書店
夏目漱石／著 橋口五葉／装幀『鶉籠』1907(明治40)年1月 春陽堂
夏目漱石／著 橋口五葉／装幀『虞美人草』1908(明治41)年1月 春陽堂
夏目漱石 白仁三郎宛書簡1907(明治40)年3月11日
夏目漱石／著 橋口五葉／装幀『草合』1908(明治41)年9月 春陽堂
夏目漱石／著 橋口五葉／装幀『それから』1910(明治43)年1月 春陽堂
夏目漱石／著 橋口五葉／装幀『門』1911(明治44)年1月 春陽堂
夏目漱石／著 橋口五葉／装幀『行人』1914(大正3)年1月 大倉書店
夏目漱石／著・装幀『こゝろ』1914(大正3)年9月 岩波書店
夏目漱石／著 「こゝろ」原稿〈複製〉
『漱石全集』第1巻1993(平成5)年12月 岩波書店
夏目漱石／著『こころ』1998(平成10)年11月第102刷(1927年7月初刷)岩波書店
夏目漱石／著 津田青楓／装幀『道草』1915(大正4)年10月 岩波書店
夏目漱石／著 津田青楓／装幀『明暗』1917(大正6)年1月 岩波書店
夏目漱石／著 津田青楓／装幀『三四郎』1924(大正13)年6月22版(1915年11月初版)春陽堂
夏目漱石／著 津田青楓／装幀『草合』1917(大正6)年4月 春陽堂
夏目漱石／著 津田青楓／装幀『明暗』1919(大正8)年11月26版(1917年1月初版)岩波書店
橋口五葉／装幀 胡蝶本 全24冊 1911(明治44)年～1913年5月 靑山書店
永井荷風『すみた川』・小山内薫『大川端』・正宗白鳥『微光』・森鷗外『新一幕物』・谷崎潤一郎『刺青』・森鷗外『青年』・泉鏡花『三味線堀』・吉井勇『恋愛小品』・永井荷風『紅茶の後』・永井荷風『新橋夜話』・長田幹彦『尼僧』・久保田万太郎『浅草』・小山内薫『鶯』・森鷗外『みれん』・水上瀧太郎『その春の頃』・平出修『畜生道』・谷崎潤一郎
『悪魔』・森鷗外『我一幕物』・久保田万太郎『雪』・長田幹彦『滯』・岡田八千代『絵の具箱』・永井荷風『牡丹の客』・水上瀧太郎『処女作』・松本泰『天鵝絨』
鈴木三重吉／著 背字／夏目漱石 津田青楓・高野正哉／装画『鈴木三重吉全集』全13冊 1915(大正4)年2月～1916年7月 春陽堂

『瓦』『赤い鳥』『小猫』『女』『千鳥』『霧の雨』『黒血』『金魚』『桑の実』『櫛』『八の馬鹿』『小鳥の巣』上巻・下巻
与謝野寛／編『片袖』第1集～第3集 1901（明治34）年9月～1902年3月 東京新詩社
薄田泣菫／著『白羊宮』1906（明治39）年5月 金尾文淵堂
島崎藤村／著『若菜集』1902（明治35）年10月7版（1897年初版）春陽堂
吉井勇／著 竹久夢二／装幀『祇園双紙』1917（大正6）年7月 新潮社
与謝野晶子／著 藤島武二／装幀『みだれ髪』1901（明治34）年8月 東京新詩社・伊藤文友館
与謝野晶子／著 中澤弘光／装幀『火の鳥』1919（大正8）年8月 金尾文淵堂
与謝野晶子／著 藤島武二／装幀『晶子短歌全集』第1巻 1919（大正8）年10月 新潮社
与謝野晶子／著 中澤弘光／口絵『晶子短歌全集』第2巻 1920（大正9）年4月 新潮社
田山花袋／著『田舎教師』1909（明治42）年11月再版（同年10月初版）左久良書房
田山花袋／著 橋本邦助／装幀『髪』1912（大正元）年12月 左久良書房
田山花袋／著 名取春仙／装幀『源義朝』1924（大正13）年11月 金星堂
小山内薫・谷崎精二／著 名取春仙／口絵『現代長編小説全集』第22巻1929（昭和4）年4月 新潮社
正宗白鳥／著 恩地孝四郎／装幀『歓迎されぬ男』1926（大正15）年6月 改造社
『劉生図案画集』1921（大正10）年6月 聚英閣
岸田劉生／装幀 千家元麿『自分は見た』（1918年5月 玄文社）表紙『劉生図案画集』より
岸田劉生／装幀 水野仙子『水野仙子集』（1920年5月 叢文閣）表紙『劉生図案画集』より
岸田劉生／装幀 武者小路実篤『友情』（1920年4月 以文社）表紙『劉生図案画集』より
南江二郎／著 岸田劉生／装幀『南枝の花』1927（昭和2）年5月 新潮社
木下利玄／著 岸田劉生／装幀『一路』1924（大正13）年12月 竹柏会
倉田百三／著 河野通勢／装幀『布施太子の入山』1922（大正11）年2月15版（1921年11月初版）曠野社
倉田百三／著 椿貞雄／装幀『赤い靈魂』1926（大正15）年11月 岩波書店
佐藤春夫／編輯代表 岸田劉生／装幀『十年』1929（昭和4）年9月 改造社
小穴隆一／装幀 芥川龍之介『支那游記』表紙見本刷
小穴隆一／装幀 芥川龍之介『黄雀風』表紙・見返し校正刷
菅虎雄／筆 芥川龍之介『羅生門』（1917年5月 阿蘭陀書房）題字草稿
芥川龍之介／著・装幀『羅生門』1917（大正6）年5月 阿蘭陀書房
芥川龍之介／著・野口功造／装幀『影燈籠』1920（大正9）年1月 春陽堂
芥川龍之介／著 小穴隆一／装幀『夜来の花』1921（大正10）年3月 新潮社
芥川龍之介／著 小穴隆一／装幀『春服』1923（大正12）年5月 春陽堂
芥川龍之介／著 小穴隆一／装幀『黄雀風』1924（大正13）年7月 新潮社
芥川龍之介／著 佐藤春夫／装幀『梅・馬・鶯』1926（大正15）年12月 新潮社
芥川龍之介／著 小穴隆一／装幀『大導寺信輔の半生』1930（昭和5）年7月 岩波書店
萩原朔太郎／著『萩原朔太郎詩集』1928（昭和3）年3月 第一書房
萩原朔太郎／著・装幀『虚妄の正義』1929（昭和4）年10月 第一書房
萩原朔太郎／著『定本 青猫』1936（昭和11）年3月 版画荘
室生犀星／著 恩地孝四郎／装幀『性に眼覚める頃』1920（大正9）年1月 新潮社
室生犀星／著・装幀『茱萸の酒』1933（昭和8）年11月 岡倉書房
室生犀星／著・装幀『文藝林泉』1934（昭和9）年5月 中央公論社
室生犀星／著 恩地孝四郎／装幀『青い猿』1932（昭和7）年3月 春陽堂
室生犀星／著 岸田劉生／装幀『魚眠洞随筆』1925（大正14）年7月再版（1925年6月初版）新樹堂
堀口大學／訳『月下の一群』1925（大正14）年9月 第一書房
小島烏水／著 齋藤昌三／装幀『書齋の岳人』1934（昭和9）年8月 書物展望社
高橋忠弥／画 深沢七郎『檀山節考』（1957年2月 中央公論社）カバー・表紙・扉原画
深沢七郎／著 高橋忠弥／装幀『檀山節考』1957（昭和32）年2月 中央公論社
高橋忠弥／画 深沢七郎『檀山節考』普及版（1958年5月 中央公論社）カバー原画
深沢七郎／著 高橋忠弥／装幀『檀山節考』普及版 1958（昭和33）年5月 中央公論社
谷内六郎／画 深沢七郎『笛吹川』（1958年4月 中央公論社）装幀一式
深沢七郎／著『笛吹川』1958（昭和33）年4月 中央公論社
白根美代子／画 井伏鱒二「勘蔵さん」挿絵原画『トートーという犬』（1988年4月 牧羊社）収録
白根美代子／画 井伏鱒二「蟻地獄」挿絵原画『トートーという犬』（1988年4月 牧羊社）収録

司 修／画 武田泰淳『富士』（1971年11月 中央公論社）挿絵エッチング
 司 修／画 武田泰淳『富士』（1971年11月 中央公論社）挿絵エッチング
 司 修／画 武田泰淳『富士』特製愛蔵本（1972年10月 中央公論社）挿絵エッチング
 武田泰淳／著 司 修／装幀『富士』特製愛蔵本 1972（昭和47）年10月 中央公論社
 高柳重信／著 中原史人／装幀『落子』1950（昭和25）年8月 東京太陽系社
 塚本邦雄／著『水葬物語』1951（昭和26）年8月 メトード社
 井伏鱒二／著 中川一政／装幀『川』1932（昭和7）年10月 江川書房
 横光利一／著 佐野繁次郎／装幀『機械』1931（昭和6）年4月 白水社
 宇野千代／著 東郷青児／装幀『大人の絵本』1931（昭和6）年5月 白水社
 安岡章太郎／著 田村義也／装幀『感性の骨格』1970（昭和45）年3月 講談社
 安岡章太郎／著『ガラスの靴』1975（昭和50）年2月 牧羊社
 林真理子／画『マリコ・ストリート』挿絵原画
 林真理子／著『マリコ・ストリート』1988（昭和63）年2月 マガジンハウス
 澤村斉美／著 濱崎実幸／装幀歌集『galley』2013（平成25）年11月 青磁社
 棟方志功／刻「文藝主潮之記念」板画 対幅 1944（昭和19）年1月
 田山花袋／筆「文章世界」第1号立案
 伊藤弥太／画「文章世界」表紙原画 第15巻第5号 1920（大正9）年5月
 林俊衛／画「文章世界」表紙原画 第15巻第8号 1920（大正9）年8月
 小出橋重／画「文章世界」表紙原画 第15巻第11号 1920（大正9）年11月
 鍋井克之／画「文章世界」表紙原画 第15巻第6号 1920（大正9）年6月
 木村荘八／画「文章世界」表紙原画 第14巻第11号 1919（大正8）年11月
 斎藤与里／画「提灯」「文章世界」第6巻第10号（1911年7月）口絵原画
 橋本邦助／画「大島の海」「文章世界」第4巻第10号（1909年8月）口絵原画
 「學の燈」第1号 1897（明治30）年3月 丸善株式会社書店
 「ホトトギス」1901（明治34）年4月・1903年7月・1905年6月・1914（大正3）年3月 ホトトギス発行所
 「明星」辰歳第9号 1904（明治37）年9月 東京新詩社
 「スバル」第6号 1909（明治42）年6月 昂発行所
 「屋上庭園」第1号 1909（明治42）年10月 屋上庭園発行所
 「白樺」第1巻第2号 1910（明治43）年5月 洛陽堂
 「ホトトギス」1901（明治34）年4月・1903年7月・1905年6月・1914（大正3）年3月 ホトトギス発行所
 「朱鸞」第2巻第8号 1912（明治45）年8月 東雲堂書店
 「PANTHEON」第1号 1928（昭和3）年4月 第一書房
 「時世粧」第6号 1936（昭和11）年11月 時世粧同人会
 「シュピオ」第3巻第6号 1937（昭和12）年1月 古今荘
 平福百穂／画「雲母」表紙原画 第13巻第7号～第12号掲載 1927（昭和2）年7月～12月
 小川芋銭／画「雲母」表紙原画 第15巻第1号～第12号掲載 1929（昭和4）年1月～12月
 岸田劉生／画「雲母」扉原画 第19巻第8号～第12号掲載 1933（昭和8）年8月～12月
 飯田龍太 朝井閑右衛門宛書簡 1956（昭和31）年8月4日
 朝井閑右衛門／画「雲母」表紙原画 1959（昭和34）年第45巻1月号（通巻500号）
 のむら清六／画「雲母」表紙原画 第61巻第9月号～12月号 1975（昭和50）年9月～12月
 「雲母」第42巻9月号 1956（昭和31）年9月
 「雲母」第45巻1月号 1959（昭和34）年1月
 「雲母」第61巻9月号 1975（昭和50）年9月



【特別コーナー「村岡花子と柳原白蓮」】

- 村岡花子訳「赤毛のアン」第三章～第五章 翻訳原稿
モンゴメリ原作『Anne of Green Gables』原書（複製）1908年冬の版 原本 赤毛のアン記念館・村岡花子文庫蔵
『赤毛のアン』1952（昭和27）年5月 三笠書房
村岡花子が翻訳した「赤毛のアン」シリーズ
写真パネル 1958（昭和33）年 自宅書斎での花子 提供 赤毛のアン記念館・村岡花子文庫
「赤手のアン アン結婚」2000年 カナダ映画 ポスター
「赤毛のアン」1986年 カナダ映画 パンフレット
写真パネル 山梨英和女学校時代の花子 提供 赤毛のアン記念館・村岡花子文庫
写真パネル 花子、東洋英和女学校時代、弟と 提供 赤毛のアン記念館・村岡花子文庫
写真パネル 東洋英和女学校校舎写真（1900年落成の木造校舎）提供 東洋英和女学院
写真パネル 東洋英和女学校 書籍室 提供 東洋英和女学院
写真パネル テーブルマナーの様子（創立30周年記念絵葉書より）提供 東洋英和女学院
写真パネル 佐佐木信綱肖像パネル
写真パネル 柳原白蓮（花子へ贈られたポストカードより）提供 赤毛のアン記念館・村岡花子文庫
1910（明治43）年 東洋英和女学校卒業記念写真（木造校舎前にて）提供 東洋英和女学院
村岡花子「短歌 明治四十二年十二月」ノート（写真パネル）原本 赤毛のアン記念館・村岡花子文庫蔵
写真パネル 村岡花子詠草「ひなげし」原本 赤毛のアン記念館・村岡花子文庫蔵
写真パネル 合同歌集『さくら貝』1914（大正3）年3月 バアジン社 原本 赤毛のアン記念館・村岡花子文庫蔵
「心の花」第18巻第6号 1914（大正3）年6月（復刻）
道雄の肖像写真（大正11年9月10日、夫妻と共に）提供 赤毛のアン記念館・村岡花子文庫
追悼文集『道雄を中にして』1926（大正15）年12月 私家版
村岡花子 前田晁宛書簡 1927（昭和2）年10月27日
柳原白蓮『踏絵』（複製）1915（大正4）年3月 竹柏会出版部 装幀 竹久夢二 2008（平成20）年10月、
ながらみ書房よりの複製本
名取春仙 画 柳原白蓮 賛「人いまだ神にてありし古き代のあめつちの中の声を今聞く」額装
名取春仙 画 柳原白蓮 賛「初夏やしら百合の香に抱かれて寝るとおもひき若草の床」軸装
名取春仙 画 柳原白蓮 賛「月も日もわれらがための光ぞといひてしひより天地をしる」軸装 個人蔵
名取春仙 画 柳原白蓮 賛「いづことも花のかをりのかそけさや神の心にふれしものかと」軸装 個人蔵
柳原白蓮「わがこゝろみどりの雨にとけ入りて小草の花も咲くはとしおもふ」扇面 個人蔵
柳原白蓮「大自然の力の前に人の子は何をか思はむたゞ祈るべき」色紙
柳原白蓮「春浅しそらには空のひかりあり人にはひとのよろこびあれや」色紙
柳原白蓮「観世音寺みあかし暗うたゝひとり普門品よむ声にぬかずく」色紙
「心の花」第18巻第11号 1914（大正3）年11月
「心の花」第19巻第4号 1915（大正4）年4月
「心の花」第19巻第5号 1915（大正4）年5月
「心の花」第19巻第7号 1915（大正4）年7月
「心の花」第20巻第5号 1916（大正5）年5月



② 新収蔵品展 ペンをもつ、筆をとる

期 間 平成27年1月24日(土)～3月22日(日)

趣 旨 平成26年に新たに収蔵した資料を中心に展示。

一人一人が独自の書体をもつ手書きの文字は、見る者に様々な想像をさせるほか、推敲の跡を残す原稿からは、作品生成の過程を推察することが出来るため、文学研究においても貴重な材料となる。本展では、約80点の資料で書き手の個性を伝える直筆の魅力を紹介する。

また、第22回やまなし文学賞小説部門入賞作が新聞掲載された際の挿絵原画を、あわせて展示する。

展 示 資 料 一 覧

樋口一葉「まだ消えぬみ山のまつの上にかすみて出るはるのよの月」「ますかがみみしらぬ人のころまで
うつつは筆のすさび成けり」短冊軸装

中島歌子「閑庭虫 やえむぐら茂れるにはのいぶせさもよるはわするゝむしの声かな」短冊

和田芳恵「蓬生日記（一葉日記）」原稿

谷崎潤一郎 森田重子宛書簡 1934（昭和9）年12月6日

谷崎潤一郎 渡辺重子宛書簡 1943（昭和18）年3月8日

久保田万太郎「べりかんのうづくまりたる二月かな」短冊

佐佐木茂索「秋風に留守にあがりて所在なき」短冊

三好達治「さまざまの鞆をもちて月の友」短冊

中村汀女「旅さびし汐満つ音と春の星」短冊

永井龍男「月の夜のおはぎにかけし白砂糖」短冊

中里恒子「萩すすき裾美しう歩きけり」短冊

武田泰淳「土魂商才」原稿

「文学界」第11巻第1号 1957（昭和32）年1月

山本周五郎 今井達夫宛書簡 1946（昭和21）年9月3日消印

飯田蛇笏「乳牛に無花果熟るゝ日影哉」軸装

飯田蛇笏「秋風やためてよしなきはした錢」短冊

飯田蛇笏「山嶽」原稿

飯田蛇笏「選評」原稿

角川源義「篋に一水まぎる秋燕」軸装

木俣修「蛇笏追慕」原稿

飯田龍太「紺緋春月おもく出でしかな」軸装

飯田龍太「雪の峰しづかに春ののぼりゆく」軸装

飯田龍太「青竹の千鳥かかりも寒暮にて」色紙

飯田龍太「百千鳥雌蕊雄蕊を囁すなり」色紙

飯田龍太「原子公平氏へ」原稿

飯田龍太「夕焼けて夏山おのが場にそびゆ」軸装

飯田龍太「枯れはてて濯ぐうしろは山ばかり」軸装

飯田龍太「ふたりの小林君」原稿

飯田龍太「斑雪野の月夜を水の流れくる」軸装

飯田龍太「ほうとう」原稿

榎本虎山ほか「雲母」諸氏短冊色紙貼交屏風

山崎方代「折から甲斐路の春は深く天まで桃の花盛なり」軸装

山崎方代「そこだけがたそがれていて一本の指が歩いてゆくではないか」額装

山下陸奥「山みちは日くるゝはやしおちばふみすべらんとして身をそらしたり」色紙

山下陸奥「火の山のふもとをゆけば紅深む吾木香にも灰かゝりある」色紙

長倉智恵雄「「工人」第2巻第11号編集後記」原稿

長倉智恵雄「日常吟」原稿

名取春仙 画 柳原白蓮 賛「人いまた神にてありし古き代のあめつちの中のをいま聞く」額装

金井幸則 画「山を祭る人々」挿絵原画

池田茂光『山を祭る人々』2014（平成26）年6月 山梨日日新聞社
庄子昌江 画「餅」挿絵原画
渡邊成美 画「ふわっとした穴」挿絵原画
飯田龍太 名取文子宛書簡 1979（昭和54）年11月17日
「祝巻頭若菜会」色紙
「雲母」第65巻12月号 1979（昭和54）年12月
「雲母」第66巻1月号 1980（昭和55）年1月
榎本虎山「蛩いて命しづかに露を染む」短冊
榎本虎山「髪かたち初夏を憎しと思はずや」短冊
丸山哲郎「生涯を蛇笏に執す松の花」色紙
広瀬直人「どこからも川現はるゝ秋の風」短冊
広瀬直人「日の渡るときは紅透く黒葡萄」色紙
飯田蛇笏が愛用した硯、水滴、万年筆
中村星湖が愛用した筆、硯、万年筆、ペン皿
三井甲之「ヴントの藝術硯」原稿と愛用のインク壺、筆立て
田中冬二「みかんと魚の匂ひの町」原稿と愛用の万年筆
林真理子「白蓮れんれん」原稿と愛用のサインペン
尾崎一雄 滑志田隆宛葉書 1974（昭和49）年4月16日
尾崎一雄 滑志田隆宛葉書 1974（昭和49）年4月30日
尾崎一雄 滑志田隆宛葉書 1978（昭和53）年6月27日消印
尾崎一雄 滑志田隆宛葉書 1981（昭和56）年11月27日
「海」第9巻第2号 1977（昭和52）年2月
芥川龍之介『羅生門』1917（大正6）年5月 阿蘭陀書房
尾崎一雄『ペンの散歩』1978（昭和53）年3月 中央公論社
井伏鱒二書付「春雨や百姓なれば繩をなふ 石和の百姓詠」
井伏鱒二 滑志田隆宛書簡 1978（昭和53）年6月26日
山梨県都留高等女学校 卒業記念帖 1934（昭和9）年3月
都留高等女学校集合写真
都留高等女学校集合写真 1936（昭和11）年から1938年頃
松原地蔵尊「焚火なほ走る焔のあたゝかく」短冊
殿村菟絲子「枯れてより現し世永しうめもどき」色紙
古川克巳「獵夫きて森の雫はぜんまいにも」短冊
幡谷東吾「大根の折れくちへ日の辱め」色紙
勝峰晋風「春望や山河は家をさしまねく」短冊
高柳重信「十三夜くもり硝子のあなたかな」短冊
藤田湘子「低山に佇てば遠山星まつり」短冊
本居宣長 萩原元克宛書簡 1791（寛政3）年2月2日（附 萩原元克「詠甲斐嶺歌」）軸装
岸田稚魚「三十番札所の春の氷かな」色紙
松村蒼石「年間自選二〇句」原稿
石原舟月「年間自選二〇句」原稿
福田蓼汀「年間自選二〇句」原稿
「俳句研究」第38巻第12号 1971（昭和46）年12月
米沢吾亦紅「年間自選二〇句」原稿
加倉井秋を「年間自選二〇句」原稿
多田裕計「年間自選二〇句」原稿
橋本鶏二「年間自選二〇句」原稿
山北しげり『小人の踊り』1936（昭和11）年11月 宏文堂書店
レコード（「小人ノダンス」作詞 山北しげり 作曲・編曲 佐々木すぐる 歌 大川澄子
「奈良ノ大佛様」作詞 久保田宵二 作曲・編曲 佐々木すぐる 歌 中島けい子）
レコード（「ぶんぶく茶釜」作詞 山北しげり 作曲 中山晋平 編曲 伊藤翁介 歌 関根敏子・星野廣子

「京人形の夢」作詞 加藤省吾 作曲 中山晋平 編曲 小澤直與志 歌 大道真弓
レコード (「ペコちゃんのお靴」作詞 山北しげり 作曲 長谷川堅二 歌 山口幸子
「ありさん」作詞 長田恒雄 作曲 丹生健夫 歌 小谷和子)
レコード (「旅の父さま」作詞 山北しげり 作曲・編曲 豊田義一 歌 矢島英子
「お猿の水汲み」作詞 斎藤信夫 作曲 山本芳樹 編曲 仁木他喜雄 歌 宮本靖子)

